

き ど あい らく 起 努 達 楽 のコーナー

『起業する努力、出逢いがあるって楽になる』障害者グループホーム等支援ワーカーは新規開設のお手伝いをします！また開設後の応援もしています！



「今も昔も利用者さんに寄り添いながら」

障害者グループホーム等支援ワーカー（以下GHW）の事業は、平成17年10月から県の単独事業としてスタートし、16年目になります。当事業が継続することが出来ているのは、県民の皆さまをはじめ、多くの当事者・ご家族・福祉及び医療関係者・行政等のたくさんの方々がこの事業を必要と考え、支えて下さっているからだと思います。大変感謝しております。

私は平成17年10月～平成24年3月を海匝圏域、令和元年4月より香取圏域を担当させて頂いております。GHW事業開始時の記憶は、支援費制度から障害者自立支援法に変わり、現在のような新体系に移り変わる不安をどの事業所も持っており、地域移行を進めていくのは極めて厳しい状況でした。又、精神保健医療福祉の改革ビジョンにおいて、精神科病床に社会的な入院患者が約7万3千人いると示され、地域移行をどのように実現していくのか急務でした。しかし、世界で初めて創設されたこの事業に洗掘者がいるわけでもなく、道筋が見えない中でどうにか成果を残しながらこの事業を継続するために、GHWだけでなく関係者の皆様と協力をして努力した記憶があります。そして、少しずつ成果が見えるようになり、ある精神科医師に座右の銘を聞く機会がありました。宮沢賢治の「求道すでに道である」という言葉でした。個人的な解釈ですが、利用者さんの幸せを求めていく道に足を踏み入れた時、そこにわかりやすい道はなく、利用者さんと一緒にその道を歩むことで結果的にその道が出来上がっていく。何かモヤモヤしていた気持ちに、大事な志となりました。

現在に戻り、災害や新型コロナウイルス感染症の影響で先行きが見えない状況で、精神科病院や施設からの地域移行は再度厳しい状況に入りました。何をすべき事が最善なのかわからなくなってきている今、地域での暮らしに大きな不安と小さな希望を併せ持っている利用者さんの気持ちに改めて寄り添う事で、今すべきこと、今積み重ねて準備していく事が見えてくると思っています。

香取圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 庄司俊介

★香取圏域の概況★（令和2年7月1日）

16事業所 定員数177名 住居数43（内 サテライト3住居 生活ホーム1住居）



編集後記

新型コロナウイルスがもたらした変化の中で、WEB上での研修、会議は今まで「そのうちやってくる」と言われた未来が加速して目の前にやってきた印象を受けます。感染に注意しながら、目には見えない人との繋がりを大切にするためにこれからも様々な工夫を行いながら前に進んでいきます。



発行者 千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会

事務局 海匝圏域障害者グループホーム等支援ワーカー
旭市ロー838

（社会福祉法人ロザリオの聖母会 海匝ネットワーク内）

編集担当

野田圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 大橋 宣彦

ちば発

第37号

千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会 広報紙

く 暮らしを拓く ひら



「新型コロナウイルス感染症を体験し、今、グループホームに伝えたいこと」

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

3月27日夕刻、当法人傘下の入所施設「北総育成園」（船橋市の指定管理）から電話が入りました。「職員のおひとりが陽性となり、入院されました」と。これが、始まりでした。翌日から利用者職員全員の検査が実施され、次々に発症者が見つかりました。その数は半端なものではありません。最終的には入所者70名中54名が感染、職員67名中40名が感染してしまいました。重症化の人は即入院となりましたが、その他の人たちは施設内での治療となり、施設そのものが病院化しました。前代未聞の集団感染、こうならざるを得ませんでした。「人がいない、夜勤が組めない、何とか人を！」、直後から法人本部の私に80キロ離れた現場から悲鳴が聞こえてきました。無理ありません、最悪の頃は男性支援職員がたったの3人を数えるだけでしたから。この窮状を思うと、胸が張り裂けそうでした。結局、船橋圏内同法人事業所から計8名と船橋市からの職員派遣も叶い、どうにか凌ぐことができました。

「北総育成園」は定員75名の大きな施設です。対策本部が施設内に作られ、感染症対応専門の医療チームが作られ、ゾーニングはじめ感染防護の対策等は徹底したものでした。このため派遣された応援の職員、誰一人感染することはありませんでした。

さて、グループホームで新型コロナウイルスによる感染症が発生した場合、どのような対応が取れましようか。グループホームの多くは、普通の住宅です。そして、食堂や浴室、便所等は入居者共有部分であることが多い。ゾーニングや隔離での対応は難しい。各部屋に台所や浴室、便所が完備したアパート・マンション式なら対応がより容易になりましようか。重症者は入院、無症状者や軽症者はホテル或いは自宅待機は原則ですが、重い障害の人がお一人でこのような状況に対応できるか…。支援付きの入院、そしてホテル等の待機が現実的でしょう。では、誰がその時支援を担うのか。ご家族、職員…？入居者と職員が同時に感染してしまったら。それも、複数に及んだ時ホームの運営が続けられるのか。小規模の法人、事業所ですと人手の不足がより顕著になりましよう。

ソフトとハード両面から、グループホームにおける感染症の発生を想定した対応策を準備しなければなりません。行政にお願いすること、私たち事業者が準備すること等を整理しながら。その時の大切な視点は、1法人1事業所を超えて「地域全体で対応する」、ではないでしょうか。「連帯と協同、がキーワードになりましよう。

「誰もが、ありのままに、その人らしく、地域で暮らす」は千葉県の地域福祉像です。どんなに厳しい環境下であっても、誰一人決して地域から排除されることがありませんように。私どもが経験した今回の集団感染では、誹謗中傷も激しいものでした。その経験があるだけに、余計そう思わざるを得ません。

千葉県障害者グループホーム 新規開設WEBセミナー報告



8月24日、千葉県障害者グループホーム（以下GH）新規開設セミナーが開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、会場は使用せずオンラインによる1週間限定の開催となり、初めての試みだったにもかかわらず、59名の事前申し込みをいただきました。

まず千葉県健康福祉部障害福祉事業課遠藤より、障害者グループホーム等支援事業の概要と相談実績についての説明がありました。支援実人数が7,576人、支援延べ回数が13,707回となっており、またエリア別に見ると北総地区と南総地区では支援対象の約半数が当事者であり、さらに南総地区ではご家族への支援や市町村との連携が多いという結果でした。一方東葛地区においては事業所支援、開設支援が多く、それらは今後もますます求められると思われま

す。続いて、「障害者GHの歴史と現在求められていること」と題し、習志野圏域障害者グループホーム等支援ワーカー（以下GHW）石塚より、説明がありました。そもそもGHとはどういった背景から創設されたサービスなのか、基本的な理念から始まり、国によるGH制度化への流れを説明しました。その後GHの体系や設備等に関する基準など新規開設に必要な基本的な知識をお伝えしました。

さらに「開設支援の中で気づいたこと」では、野田圏域GHW大橋より、実際にGHWとして感じた、インターネットにあふれるGHに関する情報について正しくキャッチすること、また入居希望者に選ばれるGHは何を大切にしているか、また新規開設の際見落としがちなポイント等をお伝えしました。

後半は実際にGHを利用している方の保護者の声「実際に暮らしてみても」と、千葉県障害者GH等支援事業連絡協議会で制作した「暮らしを拓く」を視聴いただきました。

今回のセミナーをご覧いただき、またGHWと地域の設置者の皆様がつながることで、入居者に選ばれるGHが少しでも増えていけばと思います。



ぶらり

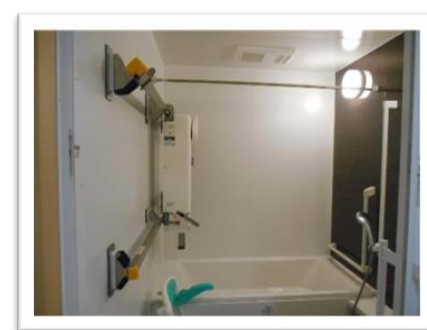
ホーム訪問



GH訪問記 ソーシャルインクルー我孫子南新木

今回は2020年2月に我孫子市にオープンした日中サービス支援型グループホーム・ソーシャルインクルーホーム我孫子南新木を訪問させていただきました。運営しているソーシャルインクルー株式会社は東京が本社で、千葉県はもとより全国各地でグループホームを運営されています。

ホームは、成田線新木駅から徒歩7分の住宅街にあり、新築2階建て、定員は1階男性10名、2階女性10名、さらに短期入所の2部屋が併設されています。エレベーターや各階に機械浴の設置があり、車いす用の洗面所、玄関などの段差を無くす等、配慮・工夫されています。



入居者は知的障害の方が多く、支援区分は4～5とのこと。

入居者の日中活動場所は生活介護が多く、平日は日中活動に参加されない数名がホーム内で、塗り絵や編み物など個別の楽しみを行いながらゆっくりと過ごしているそうです。食事は、温かいご飯を提供したいという思いから利用者のスケジュールに合わせて個別に対応しているとのこと。また職員の育成にも力を入れており、eラーニングシステムというパソコンを使用した研修を実践しているとのこと。

施設長の西澤氏は「日中サービス支援型のグループホームは利用者の時間に合わせて職員が動けることがメリットだと思っている。一方的にルールを押し付けるのではなく、一緒にルールを作ることを心掛けている。入居者の皆さんには伸び伸びと暮らして欲しい。」と話されました。

日中サービス支援型のグループホームの歴史は浅く、まだ手探りの部分もあるかと思います。その中で日中の時間を自由に設定できる等のメリットを活かして利用者の生活に寄り添い、支えているグループホームの前向きな姿勢を感じました。

家賃：60,000円/月
食費：27,000円/月
水道光熱費：13,000円/月
日用品費：2,000円/月

